

来賓挨拶

馳 浩

衆議院議員

自民党環境部会・化学物質対策小委員会 委員長

こんにちは。政治家がこういうところに出きますと、何だろうと思われるかもしれませんが、自由民主党において化学物質対策の小委員長を務めさせていただいております。これまではダイオキシン類対策特別措置法、今年の PCB 対策法、そして来年は土壌汚染を浄化するための対策法を提言しています。そういう意味では環境省とうまく連携を取りながら、化学物質にはベネフィットとリスクの両方がありますが、これをコントロールするために、関係する各省庁との連絡役を務めているのが、私が委員長を務めている自民党の化学物質対策小委員会とお考えいただければいいと思います。

今年の8月にノニルフェノールが魚類に対して、環境ホルモンとしてのリスクがあるらしいと、世界で初めて環境省から発表されました。それも第1回から続いてきたこの国際シンポジウムで、たくさんの皆さん方が一生懸命に勉強されてきた研究成果を発表された。その成果として、こういうリスク評価のかたちになってきたのだと思います。今後とも日本が、世界の環境ホルモン問題をリードする役割を果たしていかなければいけないと思っています。それと同時に、危ない、大丈夫だろうかというリスクばかりが先行するのではなくて、化学物質が私たちの生活に果たす役割の大きさをも伝えていくのが皆さんであり、私どもの役割ではないかと思っています。

長い道のりの研究となるかとは思いますが、皆さん方の鋭意ご努力を、我々も政治の立場からバックアップさせていただきたいと思っています。実のあるシンポジウムとなりますことをお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。